

## 第2回 湯沢町文教施設整備委員会教育分科会

と き：平成22年6月24日(木)13:30~

ところ：湯沢町役場 3階 議会第2会議室

### 次 第

1. 開 会

2. 挨拶 生田座長

3. 先進地視察の感想 委員

4. 配布資料の確認

5. 議 題

(1) 検討事項1 [教育方針と重点課題]について

(2) 検討事項2 [教育課程の編成について]について

(3) 次回検討事項及び開催日について

(4) その他

6. 閉 会

## 決定事項確認メモ(教育分科会)

日付	項目	質疑・意見等	確認・決定内容	備考
平成22年5月21日	副座長の選出		綿貫委員を副座長に選出	ワーキングG ・渡辺委員 ・綿貫委員 ・岡村委員 ・日岡委員 ・牛木委員 ・阿部委員 以上6名
	検討事項の確認について	統合後の地域との交流(運動会、文化祭、祭りなど)についての検討 この分科会終了後、次年度以降の進め方、スケジュールについての検討 各小学校閉校式の考え方 教育課程は建設分科会に関連するため次回以降の共同開催を検討 教育カリキュラムなどを検討するワーキンググループの立ち上げ	地域との交流については検討事項に加える。 (*分科会だけでなく地域で検討していただく問題でもあるため、全体会での討議が必要か。事務局) 次年度以降の進め方、スケジュールについて検討事項に加える。 小学校の閉校式の考え方について検討事項に加える。 (*分科会だけでなく小学校と地域の問題でもあるため、全体会での検討が討議か。事務局) 建設部会との共同開催、連携については事務局が検討する ワーキンググループを立ち上げ、教育重点、教育課程について検討する。(委員6名)	
	ワーキンググループについて		6/2(19時~)役場で開催(教育重点課題、教育課程について)	
	先進地視察のについて	事務局が川崎市はるひ野小中学校を提案	視察先は川崎市はるひ野小中学校。日程は事務局が調整し委員に連絡する。	
	その他	次回開催日 町民への情報公開、意見吸い上げの体制を確保してもらいたい 小中一貫といった部分が分かりづらい。メリットデメリットの分かる資料が欲しい	次回は6/24(13時30分~)開催とする。 情報公開、意見吸い上げは事務局がしっかりと行っていく。 次回開催時には資料提供を行う。	

## 教育分科会の検討事項

- 1 教育方針と重点課題について  
現状を踏まえ、子どもたちの何を改善し何を伸ばしていくかを考え、それに沿った教育目標と重点課題を検討する。
- 2 教育課程の編成について  
教育方針に沿い、小中を一体的にとらえた教育課程を検討する。  
学力向上はもとより、今ある問題（小1プロブレム、10歳の壁、中1ギャップ）の解消に向けた小中を一貫した教育課程について検討する。  
現行制度の範囲内で行うため6 - 3制は維持せざるを得ないものの、その枠にとらわれず、今の子どもたちの現状に併せた適切な節目を検討する。  
小学校への教科担任制、相互乗り入れ、チームティーチング等をどのように取り入れていくのか検討する。（チームティーチング：一つの科目に二人以上の教師が連携して取り組むことで教育効果を高めるもの。）  
湯沢町の特色（産業観光、自然など）を活かした「総合学習」を検討する。
- 3 校務分掌組織体系  
一貫教育の教育課程に沿った校務分掌組織体系を検討する。
- 4 送迎、交通遮断時の対応について  
通常時の送迎、交通遮断時及び急病時の対応について検討する。
- 5 学校評価制度  
一貫教育を踏まえ相応しい体制を検討する。
- 6 主な年間行事について  
一貫教育を踏まえ入学式、卒業式、運動会、文化祭、修学旅行などの主な行事のあり方について検討する。
- 7 連携活動について  
小中が連携して行う活動について検討を行う。（部活動、PTA活動、ボランティア活動など）
- 8 放課後児童クラブについて  
統合を踏まえ運営方法等を検討する。
- 9 保育との連携について  
保育との連携について検討する。
- 10 校名について  
小中を一つの学校と捉えた校名を検討する。（方法として公募もあり）
- 11 制服について  
視察先等の状況を踏まえて検討を行う。
- 12 校歌、校章、校旗について  
決定方法（公募、依頼、その他）の検討を行う。
- 13 地域との交流について（従前地域と協同していた行事等についても）
- 14 次年度以降の進め方、スケジュールについて
- 15 その他

## 検討課題1（教育方針と重点課題について）における検討案

ワーキング部会では、現在の学校経営理念と学校教育目標をもとに、次のことを踏まえ、検討案を作成した。

- 湯沢町の特色（自然、観光産業）をいかした教育
- 地域を愛する心を育む教育
- 保護者と地域が育てる子ども、学校
- 将来の就業に向けた教育
- 少人数であっても積極的に運動する機会を設ける

また、分科会としてまとめたものも、開校まで約4年の期間があることから、その間に学校を取り巻く環境、子どもたちの状況の変化もあり得るので、その状況によって次年度以降臨機応変に内容を変えていくことが必要である。

### 1 学校経営理念

- (1) 21世紀をたくましく生きぬく、知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成に努める。
- (2) 学校、保護者、地域の連携を深め、児童・生徒の教育を行う。
- (3) 町の自然や産業をいかし、地域を愛し、地域に愛され、信頼される学校をつくる。

#### 【要旨】

- (1) 現行のママ。(知、徳、体が教育の基本)
- (2) 三位一体となって、子どもたちの教育を行うことを掲げた。
- (3) 町の特色である自然と観光産業をいかし、地域に根差し、町ぐるみで支えられる学校となることを目指す意味を含めた。

### 2 学校教育目標

「意欲的に学び、心豊かで、明るく健康な児童・生徒の育成を図る」

- (1) 確かな学力の向上
  - ア 基本的な学習習慣と生活習慣の確立
  - イ 基礎学力の徹底と基礎・基本の定着
  - ウ 自ら学び自ら考える力の育成
  - エ 児童・生徒の成長に併せた教育課程の推進
  - オ 地域の産業をいかしたキャリア学習の推進

#### 【要旨】

- (1) 現行のママ
  - ア 現行のママ
  - イ 現行のママ
  - ウ ほぼ現行のママ
  - エ 10歳の壁、中1ギャップ等の解消を目指し、子どもの成長に合わせた教育課程の導入・推進を掲げた。
  - オ 将来の就労へ向けての意識を高めるキャリア学習を、地域の産業（観光等）と関連させて推進することを掲げた。

(2) 豊かな心と地域を愛する心の育成

- ア 豊かな心を育む道德教育の推進
- イ いじめ、不登校、問題行動等を生まない生徒指導の充実
- ウ 人間性や社会性を育む体験活動、ボランティア活動の推進
- エ 地域を愛する心を育む地域交流活動の推進

【要旨】

(2) 豊かな心+地域愛を加えた。

- ア 現行のママ
- イ いじめや問題行動について、現行では(4)として別項目となっていたが、こうした問題も本来は心の部分であるためここにまとめた。
- ウ 各種体験活動を通して、人間性と社会性の確立を目指すことを掲げた。
- エ 地域(学校周辺だけでなく全町的に)を愛し、地域に根差した学校を目指すことを掲げた。

(3) 自ら鍛える、たくましい心身の育成

- ア 自然をいかした活動による健全な心身の育成と増進
- イ 進んで体を動かすことができる機会の充実
- ウ 健康の三原則(食事、運動、睡眠)に基づいた健康教育の推進

【要旨】

(3) 現行の表現を改めた。

- ア 湯沢の自然(スキー、登山など)をいかした活動を通じて、健全な心身を育むことを掲げた。
- イ 少子化により、中学校の部活動の維持が困難(種目を減らさざるを得ないなど)になることが予想されるため、今年度から検討の始まっている「総合型地域スポーツクラブ」との連携を視野に入れる。
- ウ 現行の表現を改めた。

検討案	現行
<p>1 学校経営理念</p> <p>(1)21世紀をたくましく生きぬく知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成に努める。</p> <p>(2)学校、保護者、地域の連携を深め、児童・生徒の教育を行う。</p> <p>(3)町の自然や産業をいかし、地域を愛し、地域に愛され、信頼される学校をつくる。</p>	<p>1 学校経営理念</p> <p>(1)21世紀をたくましく生きぬく知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成に努める。</p> <p>(2)児童・生徒が本来もっている資質や能力を十分に働かせ、個性をさらに伸ばしていく。</p> <p>(3)保護者や地域の人々との連携を深め、信頼される学校をつくる。</p>
<p>2 学校教育目標</p> <p>意欲的に学び、心豊かで、明るく健康な児童・生徒の育成を図る。</p>	<p>2 学校教育目標</p> <p>意欲的に学び、心豊かな、明るく健康な児童・生徒の育成を図る。</p>
<p>(1)確かな学力の向上</p> <p>ア 基本的な学習習慣と生活習慣の確立</p> <p>イ 基礎学力の徹底と基礎・基本の定着</p> <p>ウ 自ら学び自ら考える力の育成</p> <p>エ 児童・生徒の成長に併せた教育課程の推進</p> <p>オ 地域の産業をいかしたキャリア学習の推進</p>	<p>(1)確かな学力の向上</p> <p>ア 基本的な学習習慣と生活習慣の確立</p> <p>イ 基礎学力の徹底と基礎・基本の定着</p> <p>ウ 自ら学び自ら考える力を育成</p>
<p>(2)豊かな心と地域を愛する心の育成</p> <p>ア 豊かな心を育む道徳教育の推進</p> <p>削除</p> <p>削除</p> <p>イ いじめ、不登校、問題行動等を生まない生徒指導の充実</p>	<p>(2)豊かな心の育成</p> <p>ア 豊かな心を育む道徳教育の推進</p> <p>・倫理観、規範意識、命を大切にする心を育むために、心に響く道徳時間の工夫と充実</p> <p>・心のふれあいを大切にし、社会連帯意識を高め、自然と人間との調和した郷土を築こうとする心情を養う。</p> <p>イ 豊かな体験活動の推進</p>

<p>ウ 人間性や社会性を育む体験活動、ボランティア活動の推進                  エ 地域を愛する心を育む地域交流活動の推進</p>	<p>・児童生徒の社会性や豊かな人間性を育むために、ボランティア体験活動や自然体験活動をはじめ、様々な体験活動の取組</p>
<p>(3)自ら鍛える、たくましい心身の育成                  ア 自然をいかした活動による健全な心身の育成と増進                  イ 進んで体を動かすことができる機会の充実                  ウ 健康の三原則（食事、運動、睡眠）に基づいた健康教育の推進</p>	<p>(3)自ら鍛えあげようとする、たくましい心身の育成                  ア 目標や計画をもって意欲的に活動し、たゆまぬ努力を続ける人間の育成を図る。                  イ 健康で明るい人格の形成を図る。気力・体力の充実、増進を図る。                  ウ 健康の三原則（調和のとれた食事、適切な運動、十分な休養・睡眠）に基づいた改善が図られるよう、健康教育の充実と家庭や地域への働きかけの工夫。</p>
<p>以下削除</p>	<p>(4)いじめや問題行為、不登校等に対応する児童・生徒指導の充実                  ア いじめ・不登校の未然防止と適切なる対応                  ・いじめ未然防止に向けた取り組みの強化                  ・いじめ防止学習プログラムの自校プランの作成とその取り組みを推進                  ・町教委、学校、地域、保護者、による「湯沢町いじめ根絶運動」の展開                  イ 不登校児童・生徒の支援                  ・不登校児童・生徒に対して学校として一層きめ細かな支援を行なうとともに専門機関との連携した取組を推進する。</p>

## 検討事項2（教育課程の編成について）における検討案

### 1 小中の連携カリキュラムの開発について

教育カリキュラムの開発は専門性が高いため、今年度は細かなことではなく大まかな方向付けを行う。

現状を考えれば、4-3-2の節が適切ではないか。そのなかで5、6年生において一部教科担任制とチーム・ティーチングを導入する方向としたい。但し、節目でのリーダーシップ発揮の機会は設定する。

カリキュラムの開発には指導要領のほか、教員数(定数で間に合うのか)、人事面(中学校免許を持つ小学校教諭など)が大きく影響するため、次年度以降、専門知識を持つ管理指導主事を中心とした、専門チームを立ち上げなければ難しいのではないか。

次回分科会は、次の点から建設分科会との共同開催が望ましい

4-3-2の節目とした場合の教室配置(敷地面積や階数との兼ね合い)

中学生の教科教室制の有効性は何か(はるひ野は中2から教科教室)

専門教室の配置(小学生用、中学生用が必要か)

教務室、校長室の配置

[以上、ワーキング部会検討概要]

湯沢町で視察した小中一貫校の比較

	日野学園(品川区)	はるひ野小中学校(川崎市)	芝園小中学校(富山市)
名称	小中一貫校(特区)	小中連携教育校 (現行制度の範囲)	小中一貫的連携教育校 (現行制度の範囲)
校舎の形態	施設一体型(小中同一棟)	施設一体型(小中同一棟)	施設併設型 (共用部分を介して接続しているの 一体型とも言える)
学校組織形態	校長は1人。教員に小中の垣根はなく 一体の組織で運営される。	小、中それぞれに校長を置くが、管理 職を除く全教職員に小中の兼務発令 を行う。(教務室は一つ)	小、中それぞれに校長を置き、教務室 もそれぞれの棟に分かれている。
教育課程	特 色 特区研究開発校を取得し独自の「品川 区小中一貫教育要領」を作成。4-3-2 制を導入し9年間一貫した教育を実 施。	特 色 現行制度の範囲内で、教科担任制、 TT(チームティーチング)*1、などを導入。 積極的に小中連携のカリキュラム開 発を行う。	特 色 現行制度の範囲内で、中学校教諭の 小学校への出前授業を実施。
	カリキュラムの概要 各教科について9年間を一貫した新 たなカリキュラムの実施。 現行制度における「道徳」「総合」 「特別活動」を統合した新たな「市民 科」を創設し、社会性、人間性を育む (1～9年生) 「英語科」を創設し9年間を通して実 践的なコミュニケーション能力の育成を図る (1～9年生) 「ステップアップ学習」を創設し基 礎、基本の学力と併せて特定分野の 能力、学ぶ力の育成を図る 品川区で新たに追加した学習や再編 した学習については独自の「副教科書」 等を作成。「市民科」については独自 の教科書を作成	カリキュラムの概要 9年間を4-3-2に分けきめ細かな指 導を実施。 ・前期:基礎学力、生活習慣 ・中期:一部教科担任制 ・後期:9年間を見通した学力充実 一部教科担任制 ・理科、家庭科は小学校の担任が教 科分担任で受け持ち。 ・算数、英語、体育は小学校の担任と 中学校の教員とでTT授業を実施 ・音楽、図工、書写は中学校の教科担 任が受け持ち。 ・他の科目は学級担任が受け持ち 小学校教員の中学校の受け持ち ・中学校家庭科の教科免許を持つ6 年生担任が中学校の家庭科を受け持 つ。	カリキュラムの概要 中学校教諭による小学校への出 前事業(算数科、英語科)
授業時間	小学校1～4年生は45分 小学校5～9年生は50分	小学校1～4年生は45分 小学校5～中学校3年生は50分	小学校は45分 中学校は50分
その他の取り 組み等	共同行事 ・運動会 ・文化祭 ・音楽祭 ・児童生徒会 ・地域清掃活動 5年生からの部活動	教員の交流 ・相互授業参観 ・小中合同授業 ・合同研修、 ・カリキュラム開発 児童生徒の交流 ・6年生の中学授業、部活体験 ・6年生の体育祭、文化祭参加 ・共同の清掃、福祉ボランティア	小中合同宿泊学習の実施 交流事業の実施 小中合同体育大会 あいさつ運動 図書館まつり 小中合同避難訓練
入学式	合同で1年生歓迎会、7年生歓迎会	小学校、中学校それぞれで実施	小学校、中学校それぞれで実施
卒業式	合同で6年生を祝う会、9年生を送る 会	小学校、中学校それぞれで実施	小学校、中学校それぞれで実施
制 服	共通の制服	中学校のみ制服	中学校のみ制服
校歌・校旗・校章	共通	共通	共通
教育効果	学力の向上 異学年交流による学力、人間形成 への効果 教員の意識の高まり	9年間を見据えた教育活動によって 指導面や人間関係づくりに好影響 はるひ野ならではの人間形成がな され、小学生は中学生に憧れを持っ ている	出前授業は中学校への不安解消 効果大きい 共有部分での中学生との係わりや 小学校の先生に会えることなどが中1 ギャップの解消に効果大 職員意識の高まり
今後の課題	教員の時間、労力の不足 保護者と学校が連携して児童を教育す る仕組みの構築	4年生までとそれ以降の時程の差による 運営の調整 対外的な行事との調整 PTA運営(小中役員、活動のあり方)	教員負担は大きくなるので、さらに連携 を深めるためには人的補充が必要

\*1 TT(チームティーチング)とは一つの科目に二人以上の教師が連携して取り組むことで教育効果を高めるもの。

# 小中一貫教育への取組みにおけるメリット・デメリット

## 【期待されるメリット】

9年間を見通した一貫性のある教育に取り組むことができる。

従来の枠組みを超えて、現在の子どもたちの成長に合わせた教育課程に取り組むことができる。

- ・ 10歳の壁現象への対応
- ・ 中1ギャップへの対応

小中の教員が一体となって教育指導に取り組むことで、子どもたちへの影響だけでなく、職員の意識が高まることが期待される。

算数・数学など積み重ねが重要な教科では、小中学校間での急激な難易度変化を軽減できる。

中学校へのさまざまな不安の軽減が期待できる。

- ・ 勉強に対する不安の軽減
- ・ 人間関係（友達、先輩）に対する不安の軽減
- ・ 中学校の先生は怖いのではないかという不安の軽減
- ・ 弟妹は兄姉が同じ学校内にいるという安心感

兄姉は弟妹が同じ学校にいることでの責任感の高まりが期待できる。

異学年交流などを通じ、特に高学年の児童生徒に自己有用感の高まりが期待できる。

中学生になっても小学校で指導してもらった先生に校内で会うため、成長した姿を見せたいという意識の高まりが期待できる。

これら全体を通して、たくましく生きる力、学力の向上が期待できる。

## 【予想されるデメリット】

教育課程に適度な節目を設定しないと、環境変化のない義務教育となってしまう。

対応：今の子供たちの成長過程に合わせた適切な節目の設定を行う。

6年生のリーダーシップを発揮する機会が少なくなる。

対応： に関連し従来の枠に捉われない新たな機会を設定する。

人間関係が固定化し、自分のふるまいを再構築しにくい。

対応：最低1学年2クラスは確保するので、適切なクラス替えを行う。

教員はカリキュラムの構築とその実践に、より多くの時間と労力を要する。

対応：一貫教育への取組みにおいて教員への負担が増すことは避けられないが、各種加配を最大限に活用して負担の軽減を図る。

体力・知力の差が大きい小中を一体の校舎で教育することへの不安がある。

対応：先進地では異学年交流を通して、人間形成への効果も報告されている。